



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4545 号 2018.8.15 発行

農福連携 耕作放棄地活用



障害者の就労拡大を 北九州 毎日新聞 2018年8月15日
幼稚園児と一緒に収穫を楽しむ障害者就労支援施設の利用者＝北九州市八幡西区下畑町で、長谷川容子撮影

北九州市内で約30の知的障害者施設を運営する社会福祉法人「北九州市手をつなぐ育成会」（戸畑区）が、農業の生産現場で障害者が働く「農福連携」を進めている。市内の耕作放棄地を活用し、障害者の就労機会拡大、賃金向上につなげるのが目的だ。取り組みの先頭に立つ障害者福祉サービス事業所「八幡西障害者地域活動センター」が先月、近所の幼稚園児を農園に招き、ジャガイモを収穫する教室を開いた。

【長谷川容子】

「採れたよ」。八幡西区下畑町の「下畑農園」に、近所の「あかね幼稚園」の園児97人が集まった。スコップを手にジャガイモを掘り出すたび、炎天下に元気な声が響く。栽培したセンターの利用者、波多野直子さん（43）は「一緒に

収穫できて楽しい」と笑顔で見守った。

センターが野菜の栽培に乗り出したのは2年前。約40人の利用者の平均年齢は40歳を超え、古本出品代行業やシール貼り、工場での梱包（こんぼう）作業などを請け負うが「受託では価格決定権が取引先にあって高賃金は望めない。将来に期待が持てないという悩みがあった」と松崎泰典センター長。

打開策を考える中、敷地内の小さな空きスペースでミニトマトやキュウリなどの栽培を始めた。すると、それまで室内での作業にはなじめなかった利用者が参加するようになった。昨年9月、空き地を借り受けて本格的に栽培を開始した。

約2000平方メートルの畑では、農薬や化学肥料を使わず、タマネギ、キュウリ、ピーマンなど十数種類を育てる。さらに約700平方メートルの田を借りてもち米も栽培。20～50代の利用者12人前後がほぼ毎日、作業に汗を流す。水やりや袋詰めなど障害の程度や年齢に応じて作業を分担でき、利用者は「自分が役立っている」という喜びを就労意欲につなげているという。

トラクターを貸してくれるなど近所の人たちも関わってくれるようになり、交流も増えた。育成会の小松啓子理事長は「後継者不足で困っている遊休地や耕作放棄地の解消など地域の課題に障害者が主体的に関わることで、必要とされる存在になれば」と願う。今後は、育てた野菜を東京五輪・パラリンピックで使ってもらえるよう農場の衛生管理水準などを保証するJGAP認証の取得も目指す。

障害者雇用推進へ大分労働局 企業に合わせ支援計画 大分合同新聞 2018年8月15日

大分労働局は障害者を雇用していない県内企業の障害者雇用を推進するため、本年度か

ら「提案型の雇用支援」を始める。企業ニーズに合わせた支援計画を作成。県や大分障害者職業センター（別府市）など関係機関でつくるチーム体制で、効率的・効果的な方法を提案していく。障害者の雇用促進は法で定められている。

雇用推進チームはほかに就労移行支援事業所、障害者就業・生活支援センターなどで構成。雇用経験やノウハウのない企業に、ニーズに合わせた支援計画を作成する。▽障害者雇用への理解促進▽受け入れ態勢の整備など採用に向けた準備▽求人票の準備などの採用活動▽採用後の定着—といった支援に取り組む。

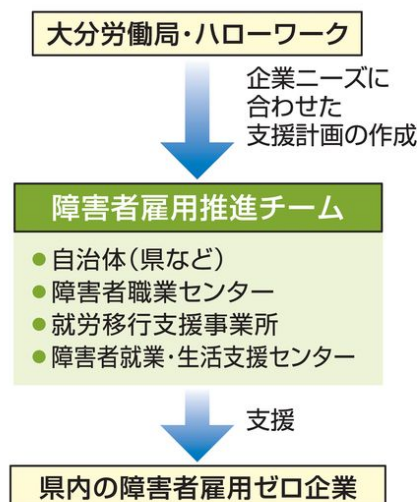
大分労働局では、障害者と一緒に働く従業員向けの「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」も開催。事業所への出前講座も実施する。

同局職業対策課の土井信三・地方障害者雇用担当官は「同じ障害だから同じ対応というわけではなく、ケースに合わせて丁寧に対応していくことが大事。着実に支援を進めていきたい」としている。

障害者雇用促進法は、法定雇用率（従業員のうち障害者が占める割合）を設け、事業主に対し、常時雇用する従業員の一定割合以上の障害者を雇うことを義務付けている。県内の算定雇用障害者数（2017年6月1日現在）は3175人と8年連続で過去最高を更新。実雇用率は2.44%で全国5位だった。

民間企業（従業員50人以上）の法定雇用率は今年4月、2%から2.2%に引き上げられ、精神障害者も対象に加わった。同局によると、県内で法定雇用率を未達成の企業は約300社（17年度）。このうち半数から6割の企業は障害者の雇用がない「ゼロ企業」とされる。

障害者雇用を推進するための「提案型の雇用支援」



（出典：大分労働局）

障害者雇用、助成拡大へ...勤務週20時間未満も

読売新聞 2018年08月15日

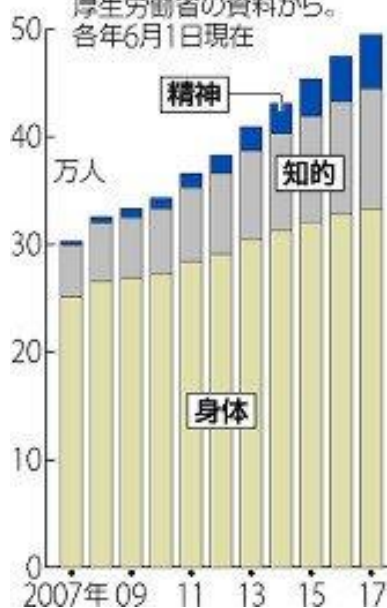
厚生労働省は、現在は勤務時間が週20時間以上の障害者を雇用している場合に企業に支払っている障害者雇用調整金について、週20時間未満の短時間勤務でも支払う方針を決めた。精神障害者が増える中、長時間の労働が難しい症状を抱える人たちの雇用を後押しするのが狙い。厚労省は今月下旬から専門家らの会議で具体的な助成対象の検討を始める。

民間企業で雇用されている障害者は昨年、約49万6000人に上り、2012年からの5年間で3割増えた。現行制度では、勤務時間が週20時間以上の障害者を雇用している場合に限り、1人あたり最大月5万円余りを企業に支給している。

一方、うつ病や統合失調症などの精神障害を抱える患者は年々増えており、11年の約57万人から、16年は84万人に増加。厚労省によると、精神障害者の中には、長時間勤務がストレスになる人も多いとされ、精神障害を抱える労働者全体のうち短時間勤務者が占める割合は、08年の0.6%から13年は4.2%へ上昇している。

民間企業の障害者雇用人数

厚生労働省の資料から。各年6月1日現在



【西日本豪雨】「ゆめ風基金」被災障害者世帯に見舞金 1世帯、5万円支給

産経新聞 2018年8月14日

地震などで被災した障害者を支援してきたNPO法人「ゆめ風基金」(大阪市)は、西日本豪雨で被害を受けた障害者のいる家庭に1世帯当たり5万円の見舞金を支給する。

障害者がいる世帯が、各地の福祉事業所や利用している障害者施設などを通じて申請できる。障害の種類や程度、被災した地域は問わず、申請は8月末まで。

ゆめ風基金は阪神大震災を機に設立され、大きな災害時に障害者施設への資金援助をしてきた。今回の豪雨では、より多くの障害者を支援しようと、個人向けの見舞金支給を決めた。

理事の宇田川規夫さん(72)は「できるだけ迅速に支給して必要なことに使ってほしい」と話す。問い合わせはゆめ風基金、電話06(6324)7702。

LITALICOが急反発、好調な1Q決算を評価

朝日新聞 2018年8月15日

障害者の就労支援が主力のLITALICO(6187)が急反発。午前9時46分時点では前日比239円(13.3%)高の2041円で東証1部の値上がり率銘柄ランキングのトップとなっている。14日の引け後に発表した今2019年3月期の第1四半期(18年4~6月期)連結決算が好調な内容だったことを評価した買い注文が寄り付き段階から増加した。売上高は29億7300万円、純利益が2億600万円だった。今期から連結決算に移行しており前年比較はないが、障害者雇用に対する旺盛な需要を背景に収益は順調に拡大している。売上高122億1200万円、当期純利益5億7000万円などの通期予想は変えていないものの、同利益の進捗率は約36%と高く、今後の上方修正を期待した個人投資家などが新規の資金を振り向けているようだ。海外景気や為替相場などの影響を受けにくい事業内容も買い安心感につながっている。

授産品利用、県職員が率先 「1人1品」取り組み強化 静岡

静岡新聞 2018年8月15日

授産製品への理解を広めるために県庁内で開いたフェア＝10日、県庁



静岡県は2018年度、障害者が福祉事業所で生産した授産製品の利用拡大に向け、職員に購入を促す「1人1品運動」の取り組みを強化している。利用拡大のアイデアを検討する若手職員のワーキンググループ(WG)を設置し、県庁内で授産製品を販売するフェアも開催している。

WGには各部署の若手約15人が参加する。7月の第1回会合では「おしゃれな感じが足りない」「授産品という呼び方を変えてみてはどうか」などと率直に意見を出し合った。来年3月までに複数回開催し、社会福祉法人や就労支援団体の職員とともに、イメージ戦略や宣伝方法の改善策を検討していく。

フェアは8月9、10の両日開き、県内約40の事業所が出店した。食品や雑貨など約140種類の授産製品を販売し、製品作りの実演もして仕事の丁寧さをPRした。2月にも開催する予定。

授産製品の利用拡大は障害者の工賃向上につながる。県の計画(18~20年度)では、平均工賃の目標額は月3万円。障害者が自立した生活を送るための必要額から障害年金の額を差し引いた金額とされるが、16年の平均工賃は月1万5159円で半額程度にとどまっているのが現状だ。

県障害者政策課の担当者は「授産製品の品質の良さが伝わらず、普段使えるものとしてのイメージが、いまひとつ広がっていない。まずは足元（県庁職員）から理解を深め、多くの県民の手に取ってもらえるように努めたい」と話した。

旧優生保護法の山形県独自調査 眠れる資料、積極的に発掘＝二村祐士朗（山形支局）



毎日新聞 2018年8月15日

山形県立の知的障害者施設に入所していたころの写真をじっと見つめる、不妊手術を受けたとされる女性（写真の一部を加工しています）＝山形県内で4月3日、二村祐士朗撮影

二村祐士朗（ふたむら・ゆうじろう）

旧優生保護法（1948～96年）に基づき、障害者らに強制的に不妊手術が実施された問題で、山形県内では強制だったかどうか不明のものも含め151人が手術を受けていたことが、同県の調査で明らかになった。

国が各都道府県や政令市に調査を求めた対象施設に限れば49人だったが、同県が対象外の施設も独自に調べたところ、102人分の手術記録が見つかった。同法に関する資料は、保管期間を過ぎ、破棄されたものも多いとされるが、調査の姿勢次第で眠っている資料が見つかる可能性を示したと言える。

スペシャル五輪 有森さんらPR 来月愛知で

大会開催記者発表で記念撮影する（左端から時計回りに）ドリームサポーターの室伏由佳さん、小塚崇彦さん、森理世さん、安藤美姫さん、大会会長の有森裕子さん、アスリートの松田雄大郎さん

知的障害者のスポーツの祭典「第7回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知」が9月22～24日に愛知県内で開かれるのを前に、大会会長を務める女子マラソン五輪メダリストの有森裕子さん（51）らが14日、名古屋市内で記者会見し、「選手が全力でプレーする姿を多くの人に見てもらいたい」と大会をPRした。

大会では陸上や競泳、バドミントンなど13競技が名古屋市や豊田市など5市町の9か所で行われ、全国から約1000人の選手が参加を予定。来年、アラブ首長国連邦のアブダビで開かれる世界大会の選考会も兼ねる。

記者会見には広報活動に参加する「ドリームサポーター」として、いずれも元五輪代表で、フィギュアスケートの安藤美姫さん（30）と小塚崇彦さん（29）、ハンマー投げの室伏由佳さん（41）らも出席した。

読売新聞 2018年08月15日



関西から熱い思い 24時間テレビに西川きよしら メインパーソナリティーに決まった中谷、西川、虎谷（左から）のトリオ

41回目を迎える「24時間テレビ41」（25～26日）の読売テレビ発のメインパーソナリティーに、1978年の第1回放送にも出演した西川きよし（72）、そして同局夕方ニュースワイド「かんさい情報ネットten.」のメインキャスターを務める中谷しのぶアナ（29）、同局朝の情報番組「朝生ワイドす・またん！」の

大阪日日新聞 2018年8月15日



虎谷温子アナウンサー（35）の3人が決まった。

関西ローカル枠は26日朝11時半から約1時間と、夕方4時55分から約30分を予定。前日25日も随時中継に登場する。「関西から～人生を変えてくれた人～」と題して、障害や病気など困難との闘いや新たな人生の目標を掲げて進む人々取材し、関西からの熱い思いを発信する。

西川は「“西川、一生懸命頑張りなさい”と天から言ってもらったようで、本当にうれしい。せっかく久しぶりに24時間テレビに参加させてもらうので、去年よりたくさんの皆さんの真心を届けていただけたらうれしい」とおなじみのガッツポーズ。

中谷アナは担当パーソナリティー4回目となり「西川さんとは以前担当していた『秘密のケンミンSHOW』以来の共演で、久しぶりに一緒にお仕事をさせていただけるのがすごく楽しみ」。2児のママでもある虎谷アナは昨年が続いて2回目で「去年、反響の大きさに本当に驚いた。子どもが通う幼稚園のお母さんたちから、番組が始まった直後からすごい数のLINEが来て“こんなにたくさんの方が見てくださっているんだ”と実感した」と張り切る。

あべのハルカスからの中継には、昨年引き続き黒木千晶アナ、ツイン21付近からの中継には7月にデビューしたばかりの新人・澤口実歩アナが登場する。

長野) 乳児院で県内初の里親認「支え合い幸せな毎日」 鶴信吾

朝日新聞 2018年8月15日



丸山充院長の話を聞く宮田夫妻
＝2018年8月14日午前10時1分、長野県上田市、鶴信吾撮影

虐待や親との死別など、さ

まざまな理由で家庭を離れて暮らす乳幼児を預かる「うえだみなみ乳児院」(長野県上田市)で、初めて

養育里親が誕生し、14日、認定式が行われた。同院によると、乳児院による養育里親の養成は全国的にも珍しい。

認定されたのは、長野県東御市の宮田宗人さん(46)、玲子さん(49)夫妻。子どもがなく、長い間、不妊治療を続けていた。昨夏、長野大学社会福祉学部の上鹿渡(かみかど)和宏教授の研修で、養育里親を養成する同院の取り組みを知った。「私たちでもお役に立てるのなら」。同院の研修や家庭訪問を受け、今年7月、長野県の審査を通過。県から養育里親に認定された。

この日、同院からも認定証を受け取ると、玲さんは「初めての子育てで不安もありますが、子どもや夫婦で支え合って、幸せな毎日を過ごしていければ」と涙を浮かべた。



ストレスチェック 歯科医師らも可能に

日本経済新聞 2018年8月14日

厚生労働省は企業などが労働者の心理的な負担を把握するストレスチェックの実施者に、歯科医師と公認心理師を追加した。従来は医師と保健師、必要な研修を修了した看護師と精神保健福祉士の4職種だった。職種を広げ、企業がストレスチェックを実施しやすい環境を整える。

厚労省は今月、労働安全衛生法に基づく省令を改正した。労働者の健康管理などに関する研修を受ければ、歯科医師と公認心理師もストレスチェックを実施できるようにした。

公認心理師は「認知行動療法」などを使って心の問題に取り組む専門資格で、9月に初の試験が行われる。

ストレスチェックは2015年12月に施行された改正労働安全衛生法で制定された。50人以上いる事業主は年1回、従業員らにチェックを実施し、結果に基づいた医師による面接指導をしなければならない。

介護医療院 今年度開始 「医療」と「住まい」両立 医師が常駐／プライバシーに配慮

毎日新聞 2018年8月15日
介護医療院細谷の入所者にゼリーを食べさせる職員。療養室は4人部屋で、背後のついたとカーテンで仕切られている＝群馬県富岡市で

医師が常駐して医療と介護を同時に提供する介護保険施設「介護医療院」が、今年度から始まった。一定の医療ケアと住まいの機能を併せ持つことが特徴だ。国は、施設代わりの長期入院とも指摘される介護・医療の「療養病床」を介護医療院に転換するよう促しているが、自治体からは財政負担が増えることへの懸念も出ている。

【原田啓之】

介護医療院は昨年の介護保険法改正で導入された。



受け入れ10年 EPA外国人介護職 求人増え獲得競争に 東京新聞 2018年8月15日

現地合同説明会で、日本での就労を希望するEPAスタッフ候補者に仕事や生活について説明するサンチャゴさん(右)＝マニラで(サンライフ、サン・ビジョングループ提供)

経済連携協定(EPA)に基づき、日本が外国人の介護職を受け入れるようになって今年で十年。昨年度までにインドネシア、ベトナム、フィリピンの三カ国から計約三千五百人が来日し、日本の高齢者施設に溶け込みつつある。一方、日本人は介護職離れが進んでおり、現場の人手不足を補うため、施設によるEPA人材の獲得競争が始まっている。(出口有紀)



「夕食は無料のパクパク」「ノーリフティングで介護」…。七月下旬の一週間、マニラで開かれた日本の施設の合同説明会。介護施設を運営する日本の計百三十一法人が出展して、働きやすさ、生活しやすさをアピールした。

愛知、岐阜、長野の三県で特別養護老人ホーム(特養)などを運営する社会福祉法人サンライフ、サン・ビジョングループのブースでは、昨年十二月からグループの特養で働くフィリピン人スタッフ、サンチャゴ・メリ・アン・アクランさん(32)が、日本の介護現場で使われる単語を交えたり、写真を見せたりして説明した。「パクパク」は弁当という意味のタガログ語、「ノーリフティング」は介護職が入所者を抱き上げるような負担が重い介護はしていないということだ。

サンチャゴさんは一日で六十五人に説明。「給料や学習支援の情報が人気だった」と話す。同グループで、採用を担当する事業創設戦略部長の山本さやかさん(48)は「口コミが一番効果的なので、フィリピン人職員の大学の後輩や友人にも声を掛けてもらった」と話す。

説明会は、日本での受け入れを仲介する国際厚生事業団(東京都港区)が主催。EPAの職員のメッセージ映像を流したり、日本人職員が浴衣で臨んだり工夫を凝らしたという。

EPAは、貿易や投資、人の移動などが自由にできるよう、二国間や地域間で結ぶ協定。介護分野では二〇〇八年度にインドネシア、〇九年度にフィリピン、一四年度にベトナムからそれぞれ受け入れを開始。看護学校卒業者や四年制大学、三年以上の高等教育機関を

卒業し介護士資格を取得した人らが対象となる。現地と日本で研修を受け、日本人と同じ待遇で受け入れ施設で働く。実務経験を三年以上積んで、介護福祉士の国家試験を受け、合格すれば在留資格を得られる。

事業団によると、ここ数年、受け入れ人数を大幅に上回る求人が出ているという。本年度は、ベトナムから百九十四人を受け入れる予定だが、求人数は三・七倍の七百十九人だ。担当者は「国内で介護人材の不足感が顕著になってきたことと、EPAで来たスタッフが活躍できる人材ということが伝わってきたからではないか」とみる。

同グループが、外国人の採用に目を向けたのは一五年。山本さんは「今後、日本人だけでは、介護人材の確保は無理になると判断した」と振り返る。先行してEPAの職員を受け入れる他の施設で戦力になっている様子を知り、一六、一七年にフィリピンとベトナムから三十九人を採用。本年度は両国から十八人を受け入れ見込みで、来年度はインドネシア人の採用にも乗り出す予定だ。「看護や介護能力も高く、日本語の表現も丁寧で、施設を利用するお年寄りにも好意的に受け入れられている。獲得競争は激しくなると思うが、ここで戦うしかない」と気を引き締める。

吉岡里帆「健康で」第5話扶養照会で対立4・8% 日刊スポーツ 2018年8月15日



上司の京極大輝(田中圭=左)はえみる(吉岡里帆)に扶養照会を進めることを指示する

女優吉岡里帆(25)主演のフジテレビ系連続ドラマ「健康で文化的な最低限度の生活」(火曜午後9時)の14日放送の第5話の視聴率が4・8%(ビデオリサーチ調べ、関東地区)だったことが15日、分かった。前週より0・7ポイントのダウンとなった。

視聴率は初回から7・6、5・5、5・8、5・

5%だった。

義経えみる(吉岡)は、安定を生活を求めて東京都東区役所に就職、公務員になった。だが、最初に配属された「生活課」で待ち受けていたのは、個性豊かな職場の仲間たちと、生活保護の壮絶な現実だった。彼女が担当する110世帯の生活保護受給者たちには、知れば知るほど奥の深い、それぞれの人生があった。原作は「週刊ビッグコミックスピリッツ」に連載中の柏木ハルコ氏の同名コミック。

14日放送の第5話では、ある日、生活保護を受けたいと一人の男が窓口に来てくる。男の名前は島岡光(佐野岳)。島岡は、自分がうつ病であること以外は何も話そうとせず、親族による援助が可能かを確認する“扶養照会”もかたくなに拒否。えみる(吉岡)の上司の京極大輝(田中圭)は調査をえみるに指示した。

戸籍をもとにえみるが島岡の父親のことを調べると、驚きの事実が判明する。島岡は、島岡雷(小市慢太郎)という輝かしい経歴をもつ総合病院の院長の息子だったのだ。父親に収入があると判断した京極は、早速、扶養照会を進めるよう指示するが、島岡が何か人に言えない悩みを抱えているのではないかと考えたベテランケースワーカー半田明伸(井浦新)は、慎重になるべきだと京極に進言。2人の意見は真っ向から対立。

えみるから扶養照会することを聞かされた島岡は、それを激しく拒否。しかし、どんなに尋ねてもその理由を明かさなため、いら立ちを隠せなくなったえみるは「決まりだから仕方ない」と、島岡の希望を突っぱねた。

大阪) 旅館若女将と介護職員のアイドル、17日にライブ 鈴木洋和

朝日新聞 2018年8月15日

滋賀県高島市にある旅館の若女将（おかみ）と、大阪府内の介護施設職員が、アイドル



ユニット「AH（嗚呼（ああ）」）として活動している。7月には初のフルアルバムをリリースした。

フルアルバムの発売イベントでライブをする「りりかる*ことばお」さん（左）とSuzuさん＝大阪市北区のタワーレコード梅田NU茶屋町店



「りりかる*ことば



お」と名乗る大久保琴江さんと、「Suzu」こと鈴木由佳さんの2人組。いずれも20代というほかに詳しいプロフィールは明かしていないが、それぞれアイドルとは別の顔を持つ。

大久保さんは旅館「宝船温泉 湯元ことぶき」の若女将だ。2代目の父が営み、大久保さんは調理の補助、接客、配膳、予約管理などを担う。鈴木さんは、母が立ち上げたデイ



サービス介護事業所で働く。看護師の資格を持ち、事業所の管理者も務める。

樹海的美しさ ポスターで「生命力豊かな場所」

読売新聞 2018年08月15日

青木ヶ原樹海の魅力をPRするポスター



県は、自殺者が多い青木ヶ原樹海のイメージアップにつなげようと、樹海的美しさをPRするポスターを作製した。県内の観光施設のほか、県外で実施するイベントなどで掲示していく方針だ。

ポスターには、富士山の裾野に広がる広大な樹海を、精進湖の上空から撮影した写真を使用。動植物や富士山のイラストをデザインしたロゴマークも入れ、「こんなに美しいなんて知らなかった。」とのキャッチコピーが添えられている。

県障害福祉課によると、人口10万人あたりの自殺者を示す自殺死亡率（住所地基準）は、2017年に16・2となり、全国平均（16・4）を下回ったが、自殺者が発見された場所を基準にした自殺死亡率は、全国平均を5・1ポイント上回

る21・9だった。

発見地を基準にした自殺死亡率の高さについて、同課は「青木ヶ原樹海で自殺を図る県外の人が多い」と分析。担当者は「青木ヶ原樹海は、多くの動植物にあふれた生命力豊かな場所であることを発信し、プラスのイメージを定着させたい」と話している。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行